

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第二中学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明 (ここにコメントを入力してください)
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	B	めざす学校像「一人一人が輝く活気と潤いのある学校」の具現化として、校長の経営方針の下、全職員の人事評価に係る自己評価シートの目標を連鎖させて、教科指導、学級・学年経営、校務分掌等、全教職員で組織的に取り組んだ。特に「栽培活動」は引き続き特色ある活動として取り組んでいる。全校生徒による落ち葉拾い(本年度は中止)、委員会活動による学級花壇整備、保護者協力によるPTA花壇整備、除草作業等実施した。また毎週、各種校内委員会(運営、生徒指導、教育相談)を行い、情報連携から、各分掌、担当教諭が共通理解の下、組織として機能するよう運営している。	A	コロナの影響もあり、思うように行えなかった部分もあったと思うが、保護者の93%、生徒の93.8%が評価していることから、学校は可能な範囲できちんと運営されていたと考えられる。また、各種資料や学校便りを通して、「栽培活動」に取り組むことにより得られる落ち着きや思いやりなど、生徒にとって貴重な体験は、学校の立地条件や学習環境としてはとても良い。学校は様々なことにトライアルしていることは垣間見ることが出来る。しかし、現状のコロナ禍で外部にその活動や取り組みが見えにくい状況下であることは否めない。学校現場だけの努力では限界があることは明白であり、行政や教育委員会がその活動を詳らかにする方法を模索するべきではないだろうか。 いつも全教職員が生徒と一緒に楽しく活動していて、教育目標が浸透しているように見えます。コロナ禍で活動に制限されるなかで学校はできることを進んで取り組んでいた点は評価できる。来年度以降は、コミュニティスクールの活性化を期待したい。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 <small>(いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)</small>	B	校内研修にて、心肺蘇生法、エピペン等アレルギー対応の研修を実施した。避難訓練は、地震、火災、浸水を想定した訓練を行い、火災を想定した訓練では消防署員と通報訓練を取り入れた。日常の点検、定期点検を実施。危機管理マニュアルの配付、保護者と連携して通学路点検(校外パトロール)の実施、メールによる不審者情報の配信を実施した。いじめ根絶の取組として、心と生活アンケート、いじめアンケート、人権週間、教育相談週間を実施。いじめ防止対策基本方針の見直し、再度対応の過程について全職員で確認するとともに、引き続き基本方針の改訂を行っている。	B	この項目では、職員・保護者の評価点がいずれも高く、安全対策が充足していることが伺える。学校は校内研修、避難訓練、日常点検等の活動が成果をあげ、可能な範囲で危機管理体制を整えていたと考えられる。 また、各教員等は相談室を適切に使用し、生徒の悩み等を軽減しようと努力している。いじめに関しては、物事の裏側で発生していることで表立っての活動ではどうしても本質が見えない。把握した際には迅速に対応して頂きたい。心の問題については今後余力を入れてほしい。コロナ禍で制限されていた行動や生活様式が大きく変化していくことが予想され、学校生活に不安を抱えている生徒に対するケアは継続的に必要であると考えられる。さわやか相談室に関して、親への理解を求めることも大切であろうと考える。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	埼玉県学力・学習状況調査では1年(国数)、2、3年(国数英)すべてで県平均を上回った。また、全国学力・学習状況調査では、3年生国語、数学いずれも県平均、全国平均を上回った。理科は県平均、全国平均をやや下回った。これらの調査結果の分析から、生徒全体としては基礎的・基本的な知識の定着は進んでいる。一方で、思考し、表現することに苦手意識を持っている生徒も多いと捉えられる。一人一人の生徒の支援や個別最適化の学習の在り方について着目し、授業力向上のための研修を引き続き行っていく。	B	埼玉県学力状況調査では素晴らしい結果を残しているであろうと拝察する。基礎学力の定着については、どこまで学校が対応していくのかシラバスの限りでは判断が付きにくいのではないかと感じている。部活動の合間に補習を行っていたい先生もいるが、細かな部分をどこまでフォローするのかが限界はあると思う。また、家庭学習の重要性や指導、啓発も重要ではあるが、保護者がより高い学力を希望していることから、やや保護者の満足度も減少しているかと推察する。学校の自己評価にもあるとおり、情報化社会ゆえ自ら考え、それを表現する力が苦手な子どもは全国的にも多い。次年度以降、補助教員やアルバイト・ボランティアによる補講が受けられる体制(資金面等を含め)ができると生徒や保護者の満足度も得られるのではないかとと思われる。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	数学の少人数指導やT.T等、個に応じた指導の充実に取り組んでいる。主体的、対話的で深い学びの実践を主題とし、授業改善を推進している。一人一人に配布されたタブレット端末を利用した授業実践では、各教科における活用方法の模索と教科を超えた研修を継続して行っている。また質問教室の実施、学習カードや評価カードの活用など、個々の学びを支援できるよう工夫している。生徒アンケートからは「授業はわかりやすい」は97.11%、保護者アンケート「生徒の実態に基づいた授業をしている」は80.6%であり、今後の改善に関する意見が見られた。	B	生徒アンケートの「授業が分かりやすい」は97.1%と上昇している。引き続き、生徒一人一人に沿った指導を充実させたい。一方で学年が上がることにつれ「そう思う」の数値が低くなっている。現状に限られた時間の中で、個人個人にすべて対応するのはとても困難である。これまでと同様に根気よく続けられているのか、保護者の立場からは見えない部分も多くある。次年度以降は保護者会などでの説明があるとよいのではないかと。さらに可能であれば生徒が自信を持てるよう、より高度な学習も楽しくなるような工夫が必要と考える。そのためにはボランティアによる補講等の支援が重要であると思われる。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	生徒が主体となる取組を推進している。朝のあいさつ運動、黙動清掃、授業評価、行事前の〇日間チャレンジ、完全下校時刻を守る取組、各種委員会のキャンペーン等により、学校生活の変化を作り、達成感や達成感が高まる実践を行った。生徒アンケートからは「チャイム着席や私語をしない」で話を聞くなどの授業のルールを守っていますか?」の質問に94.0%、「あなたの学年はチャイム着席や私語をしない」では76.2%。保護者アンケート「生活ルールや規律ある態度が身に付いている」93.1%。職員アンケート「生活ルールや規律ある態度」は84.3%となっている。それぞれの認識は異なるが、概ね身についており、今後も生徒主体の取組を継続していく必要がある。	B	生徒のアンケート結果を見ると、令和3年度は「守っている」が93.9%だったのが、令和4年になると88.7%に低下しているが、逆に保護者のアンケートを見ると前年に比べ評価が高くなっている。これは、生徒が日々の学校生活の中で「規律ある態度」に対する意識が高くなったとも捉えられる。クラス・学年全体を見るとこの評価は80%前後と低くなっているが、個人的な感想レベルの話であり、80%という数字は低いものではなく、生徒自身の肯定感を高めること等が必要であると考えられる。 学校内では落ち着いて生活ができている。訪問者に対しての挨拶も身についているが、登下校時に大声をあげたり、奇声を発する様子も見受けられた。一方で休日の近所の公園で中学生と思われる生徒が、近所の小さな子ども達をアシストしている光景を時々見かけ、微笑ましく感じている。生徒たちが学校で身に着けた生活態度が、家庭にも発揮されているのではないかと感じる場面もある。また、校則の見直しにより、自主性が高まっているように見える。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	毎週、各委員会・部会(運営、生徒指導、教育相談)を行い、生徒の実態について情報共有し、把握に努めている。組織的な指導の手立てと進捗を確認し、必要に応じて対策を講じている。毎月生徒指導委員会を開催し、月ごとに生徒で組織する委員会の活動計画、活動報告を行い、委員会活動の活性化を通して意図的な主体性を養う活動を行っている。また、生徒アンケートから「校則などの生活のきまりを守る」96.7%、同様に「あなたの所属学年が校則などの生活のきまりを守る」は88.7%となっている。さらに校則の見直しについて、生徒会役員との意見交換が行われ、自主・自律の醸成を図った取り組みを行っている。毎月の重点目標を校内各所に掲示し、意識高揚を図るとともに、委員会活動を連鎖させ、具体的な改善行動に結びつけている。	B	学校は生徒と様々な課題に取り組み、実行している。校則の見直しについて生徒会との意見交換が行われ、よい方向に動いていると思われる。今後も社会の風潮に流されないことがないよう十分な意見交換を行い、その取組に期待している。また、自分たちの学校という意識形成のうえで、効果が大きく感じており、委員会の活性化など生徒自身の自主性につながっているのではないだろうか。また、全学年で行う活動は先輩や後輩関係にもよい影響を及ぼすと考えられる。本来の活動だけにとらわれることなく、その時に必要なことはなにかを考え、行動できるように先生方からもご指導いただきたい。

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明（ここにコメントを入力してください）
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	体育委員会の活動として昼休みに体育館を開放し、体を動かす機会を確保している。グラウンドでは、上級生、下級生に関わらず多くの生徒が外に出て体を動かしている。また部活動について生徒アンケートからは「部活動は楽しくやりがいいがある」88.1%の回答があるが、やや昨年を下回った。目的意識を持ち熱心に活動に取り組んでいる。保護者アンケートでは「体育の授業や運動部活動等の運動に意欲的に取り組んでいる」92.1、職員アンケートでは93.8%の回答が得られている。	B	生徒、保護者ともに部活動に対する取組への評価が90%を超えていることを考えると学校の対応は評価できる。コロナの終息等を考え、より生徒が楽しく充実した部活動ができるよう取り組んでほしい。体力の個人差が大きい年代であるが故に指導も難しいと思われるが、生徒の「部活動は楽しくやりがいいがあるか？」に対して「そう思わない」との回答が5.1%ある。楽しい部活動であってほしい。 部活動での活躍は素晴らしいと感じる。二中の伝統として、運動に関しては良いイメージしかない。やりがいいと感じている生徒も多いためである。さらなる向上と活躍を願うばかりである。 「部活動は楽しくやりがいいがある」の回答は88.1%は何となく分かる気がするが、運動が苦手な文化系の部活に入っている生徒も含めたのであればこの数値には疑問があります。 朝霞第二中学校グラウンドデザイン、心身を鍛える生徒という中で、運動量の確保と場の工夫、部活動の充実、食育の推進と健康教育の充実の三つを掲げ、取り組んでいる。子どもが意欲的に体を動かせる環境を作っていたらいいと感じている。部活動についても、先生方の負担を減らせるよう改善が必要である。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	新体力テスト種目別記録の掲示や体力課題を意識した体育授業の改善など、生徒の意欲を喚起し体力向上に取り組んでいる。また、水泳指導ボランティアを受け入れ安全面と指導の充実を行った。また保健委員会の活動として、熱中症や感染防止対策の注意喚起、学校歯科医、衛生士と連携した歯科保健指導、各学年で、助産師の方からの性に関する講演会などを行った。	A	コロナ禍で制限の多い中で保護者のアンケート回答も80%以上が学校の取組に満足していることから十分な成果と考える。学校は様々な取組を行い、生徒の健康・体力向上に努めている。また、学校主催の栄養指導等も行うなど、生徒の健康的な生活を高めることを考えられる。保護者の87%、職員の86.1%が生徒の体力を高めるために意欲的な取組をしていると評価している。バランスの取れた指導を続けて欲しい。保健委員会の活動における、様々な知識と対応について、生徒の体力向上、健康への意識の定着率が上がっていくことを願っている。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	保護者と教師の会各委員の取組など、生徒への直接的な支援や校内環境整備に尽力をいただいている。また、学生ボランティア、ジャグリング、部活動外部指導者の取組など、多岐にわたり地域の人材を導入している。保護者アンケートでは、「保護者や地域と連携して教育活動を行っている」82.2%、同じ項目で職員アンケートでは87.5%であり、今後、感染対策を講じながらの制限緩和の状況における教育力向上の取組を推進する。	B	今年度はコロナによる様々な規制もあったため活動が制限されたが、職業体験など地域の協力や東洋大学との連携による読書会など、地域との連携の中で生徒の学ぶ意欲や職業意識が高められたことは評価できる。さらに地域の教育力を生かせるのではないかと期待も大きいことがわかる。先輩方の学校訪問や経験を話してもらい機会や地域の人の交流の場を増やしてみたい。左記の活動以外にも、なるこ踊りを復活させようという意欲を感じる。保護者と教師の会のほか、学校運営協議会の役割も求められ、方法等は現在鋭意模索中であり、今後も検討が必要であると考えている。保護者と教師の会執行部も、年々立候補者が減ってきている。また自治会の会員の減少により地域活動の低下も憂慮される。コミュニティスクールをはじめ、地域と協力してよりよい環境づくりが必要である。
	10	学校は保護者や地域と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	保護者、教員による校外パトロールを2度実施し、通学路の危険箇所の点検、また保護者と教師の会から市への要望を行った。保護者アンケートでは「保護者や地域は学校と協力し合って安全指導や健全育成に取り組んでいる」84.8%であった。同じ項目で、職員アンケートでは90.7%となっている。	B	生徒の96.5%、保護者の84.8%がよい評価をしているが、コロナが終焉し、日常が戻ると生徒の活動も活発になることから、今後はより安全指導や健全育成にまい進することが希望される。青少年健全育成事業の作文などにも積極的に参加している点が評価できる。通学路の危険箇所の点検も重要だが、生徒たちが通学している様子も見て頂きたい。昨今の習い事やそれ以外の活動に伴う夜間等の時間帯の「見守り」をどのように展開するかも課題と考えている。学校・家庭・地域が一体となって行われるふれあいフェスティバルや、PTAによる通学路の安全確認など、生徒の健全な成長と安全を願う取組は意欲的に継続している。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満